

茨木市議会議員

あびこ浩子

ゆめ・みらい通信



連絡先：（あびこ浩子事務所）茨木市中穂積3丁目1-35

TEL&FAX 072-601-0569

（自宅）茨木市穂積台12-503

ウェブサイト：<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>



街デイほづみで作って
いただいたブローチ

【あびこ浩子プロフィール】

- ◆玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了、大学時代銭原キャンプ場でカウンセラーとして活動
- ◆1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人 Chacha-House 代表理事/2006穂積小校区青少年健全育成運動協議会会長／2006NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事／2011穂積地区自主防災会会長／2012穂積地区福祉委員会副委員長
- ◆2008・4茨木市議会議員補欠選挙で初当選／2009・1茨木市議会議員選挙で2期目当選
- ◆夫、長女、次女、長男の5人家族

腰椎ヘルニア発病からほぼ1年・・・未だ完治せず（涙）
 どんな状況でも、まちに出かけていけること
 そんなまちづくりを目指して

みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。

暑すぎた夏が9月まで続き、どうなることかと思いましたが、10月に入り一気に秋めいてきました。秋は行事が目白押しの季節となりました。地域に子どもたちの元気な声が響くのを聞くと思わず笑顔になって元気がもらえます。

今年になってから、腰と足の調子が悪いままの毎日に、外に出かけることの大変さを実感しています。

おそらくお身体に不自由を抱えておられる皆様、高齢者のみなさまは毎日のように出かけられるときに、出かけられるルートを一度考えながら一番負担なく出かけられる道順などを考えておられるのだろうと思います。

まだまだ茨木市の街は、バリアフリーが進んでいるとは言えないなあと改めて感じています。

片方に杖を持っていると雨の日には傘を反対側でもつと更に荷物を持つのも大変で、その上階段を上り下りする

となれば、どこを支えに移動しようと考えてしまいます。そうなれば天気の良い日に出かけるのは考えてしまいますし、いきたいお店が2階にあり、そこにエレベーターが無ければ、諦めてしまいます。（例えば市民会館は、ホールの客席に行けるエレベーターがなく、表の階段を使うか舞台装置のための荷物搬入用である外枠の無いエレベーターを使うしかないのです）

外に出るのをあきらめると、人と人との出会いを諦めることにもなります。孤立しないで暮らすチャンスを減らすことにもつながります。笑顔で毎日まちに出られるそんなまちをめざします。



椅子付きの買い物カートを買いました♡

2012年9月定例議会報告



敬老会に参加しました。
穂積校区は30周年でした。



CSW（コミュニティソーシャルワーカー）予算の復活について 地域福祉ネットワークの今後のあり方 （茨木市総合福祉計画の実行にあたって）

これまで引き続き質問をしてきた「地域福祉ネットワーク」の再構築とCSWの役割。相談される市民の皆様にとってより有効な形を求めて、訴えて来ましたが、9月議会において予算が復活いたしました。

CSW（コミュニティソーシャルワーカー）さんが、この1年半、それまでの地域の相談の要役であったものが、専任つまりその仕事を専門に担当していたものが、予算が半減されたことで兼務で受け持っていたこととなっていました。相談を受ける方が、人件費が半分になるから別の仕事をしてもいい、つまりアルバイトしてつないでください、或いは、CSWをアルバイトにして本職を別に持ちなさいという形になってしまっていたのです。相談を受ける人、その対応をする専門家をアルバイトしながら仕事をするか、別の仕事をメインにアルバイトでCSWするかなどという体制にしてしまったこ

とをずっと、「おかしい」と言い続けてきました。本来必要であるならきちんとした体制で取り組むべきです。できない理由が「大阪府が予算を減らしたから」でした。大阪府と茨木市で半々の財政負担をする事業では、大阪府に減らされたら市が負担を増やすしかありません。しかし、CSWはとてもよく機能してきており、年間14000件もの相談をこなしてきていたのです。行政だけでは土日夜間までも柔軟に対応するのは難しく、その隙間を民生児童委員さんが埋める体制づくりが進められてきました。

今回新市長のもと、必要性が認められ、予算復活となりました。これからは「地域福祉計画」ではCSWの位置づけが予算復活前の状況である点を考えながら、市民の皆様にとってより良いあり方を更に求めていきたいと思っております。

＜あびこ浩子の実感＞

- 今こそ、地域力の出番だと実感します。
- どんなことがあっても、みんなで知恵と力を出し合える、そんな「まち」だと良いな。
- 身近なまちで防災の街づくりには地域での繋がりが欠かせません。

第14号

老人福祉センターの指定管理者制度導入について

9月議会において、障がい者施設と老人福祉センターとに指定管理者制度を導入するための提案が出されました。

指定管理者制度導入にあたっては、それまであり方を検討する会議が何度も持たれ、その結果として老人福祉センターについては既に指定管理者制度を導入済みの沢池荘引き続き、他のセンターにも導入するとの結果になったとの報告がありました。老人福祉センターの中には、併設の老人デイサービスセンターが運営されているところもあり、そちらの運営を担当している法人などに一緒に運営をゆだねてはどうかという流れでもあります。

しかしながら、老人福祉センターのみのセンターが福井荘と桑田荘です、この2館に

については、今後、直営から「指定管理者制度」を導入することのメリットとデメリットについてお聞きしました。

現行の沢池荘（指定管理者制度）の人件費と直営の人件費を比較してみますと、必ずしも指定管理者制度を導入したら、経費削減が進められるというほど大きな変化はありません。それならば、この5年間利用者が減り続けている老人福祉センターを、高齢者の皆様にもっと活用していただけるように、運営を見直す手段として「指定管理者制度」があるべきではないかと私はお聞きしました。一番ニーズを知っている高齢者自身が運営に携われるような、そんな指定管理者制度の在り方を求めています。現在指定管理者を募集中です。



自主防災会で救急救命訓練をしました。AEDの使い方などを学びました。周辺へ声掛けなど咄嗟のときに役立つ練習ができました

保育所待機児童対策について

都市部において、毎年保育所の待機児童問題は大きな課題になっています。

茨木市においても、毎年たくさんの待機児童があり、全国でも名前が出されるほどです。

これまでは認可保育所の定員増や建設などでなんとか対応してきましたが、春になると追いつかないのが現状です。現状は幼稚園よりも保育所を希望される保護者が多いのは全国的な傾向です。

茨木市においては、認可外保育施設への補助をすることで、待機児童の方に一時的に入所していただき、認可保育所が空き次第移っていただくこととしました。認可外保育施設に入る保育料につきましても、保育料が認可保育所と差がないようにとの配慮もなされています。

「子ども子育て新システム」が国において定められ、消費税が8%になる2015年から前倒しで実施されます。その中には、保育に関して「保育ママ制度などの家庭的保育事業」や「認定こども園制度」などを利用して対応していくこととなります。茨木市におきましても、これから新システムにおけるニーズ調査を次年度から実施し、利用される方々の声をお聞かせいただくこととなります。この制度においてはこれまでと違って「地域版子ども子育て会議」の設置ができるようになります。子どもに関わる多様な立場の方々に入っていただき、茨木市の子どもたちにとって必要な支援は何かを考える場です。是非とも設置をお願いしたいと思っています。

